

小学1年生を対象とした思いやりの心を育む取り組み

学籍番号 219211

氏名 高橋 咲良

主指導教員 橋弥 あかね

副指導教員 平井 美幸

第1章 序章

2000年文部科学省が初めて「小1問題」として取り上げ、現在も学校現場における課題として挙げられている。実際、小学校での養護実習では、保健室に来室する人数が高学年は5名程度であったのに対し、低学年は毎日10名以上であった。養護教諭は小1プロブレムによる不登校や保健室登校等の様々な言動・行動に関わる機会も多い。さらに心身の健康の保持増進の役割を担っていることから、保健室で見えてくる子どもの健康面・生活面の言動・行動の背景に小1プロブレムがないか理解し、支援する必要性が伺えるが、養護教諭と幼保小接続についての研究は少ない。そこで、小学1年生の様々な言動・行動と小1プロブレムとの関連を明らかにし、その課題を解決するために養護教諭としての支援を見出し、計画を立て、実践・評価に繋げることを目的として実践課題研究を行った。

第2章 様々な行動を示す子どもと幼保小接続の現状と課題

今日、入学後の落ち着きない状態の持続が小1プロブレムと呼ばれ、課題となっていること、そしてそのような課題を解決するために生活科・特別活動を中心とした合科的・関連的な指導等文部科学省が対策を行っていることが示された。また幼児の小学校生活への適応を図ることを目指したアプローチカリキュラムや、入学当初の児童がスムーズに学校生活へ適応していけるように編成したスタートカリキュラム等の工夫が行われているが、幼児・児童間の交流や、小学校訪問等と比較し、実施している学校が少ないことが伺えた。そして幼保小接続の取り組みと課題が見えてきた今日、養護教諭もその職務や役割、保健室の特徴から小1プロブレムで様々な言動・行動を示す児童に対し、支援の必要性が示唆された。

第3章 幼保小接続の取り組みと課題に関する文献レビュー

幼保小接続の取り組みに関する研究動向を把握し、その成果と課題を明らかにすることを目的として、文献レビューを行った。その結果、小学校の幼保小接続の取り組みとして、施設訪問及び交流や教員・保育者間の情報共有、カリキュラムの編成等が行われており、取り組みにより子どもの不安軽減や教員が事前に情報を得ることができ、一貫した指導に繋がるといった成果が示された。一方教員の多忙さや幼保園の増加等の理由により、取り組みが進んでいない、不十分であると感じている教員も多いことから、一層幼保小接続が推進されるべきであることが示唆された。

第4章 様々な言動・行動を示す小学1年生への対応と 幼保小接続の現状と課題

様々な言動・行動を示す児童に対する支援の実際と困難感、また A 小学校や学級担任、養護教諭といった各教員が行っている幼保小接続の現状と課題を明らかにすることを目的として、インタビュー調査を行った。その結果、保健室のルール説明や学習の中に体験活動を取り入れる等の工夫を行っている一方、多忙により対策を考える時間が取れない等の課題が示された。そこで幼保小接続に課題のある児童に対して、就学時健康診断後に教育相談を実施し、1人ひとりの情報を得る、様々な言動・行動を示す児童に対する日常的な声掛け等養護教諭としての支援を見出すことの必要性が示唆された。

第5章 「様々な言動・行動」を示す児童の分析

しかし本年度の第1学年の中には幼保小接続に課題のある児童がいないため、支援の実施は不可能となった。そこで、児童の様々な言動・行動に関する情報を再度収集、分析を行い、その特徴を把握することを目的として調査を行った。その結果、「自己中心性」、「自己制御」が要因による言動・行動が多いことが明らかになった。そして他者の身になることで気持ちが揺さぶられたり、他者の視点から物事を理解したりする傾向が弱いほど自己中心性が高いことから、「思いやりの心」を育む支援を行うことの必要性が示唆された。

第6章 様々な言動・行動を示す児童に対する支援の 活動展開モデル

小学1年生を対象とし、養護教諭として「思いやりの心」を育む支援を検討することを目的に、支援についての活動展開モデルを構築した。その結果「自己中心性」、「自己制御」といった児童の様々な言動・行動に関する課題解決には、相手を思いやる言動や行動についての保健教育、相談できる人や環境の整備等が浮かび上がった。そして児童は「よいことや悪いことがあることに気付き、考えながら行動すること」について幼保園で学んでいることから、それらを活かし児童が自分自身の言動や行動を振り返り、相手を褒めるような保健教育が有効ではないかと考えた。

第7章 思いやりの心を育む保健教育

様々な言動・行動に関する課題解決を目指し、児童が自身の今までの言動・行動を振り返り、日常的に思いやりのある言葉がけや行動の実施を意識づけることをねらいとして、「思いやりの心」を育む授業を実践した。保健教育後、「ふわふわ言葉・行動の木」を第1学年の廊下に掲示したところ、立ち止まり他の児童の記述内容を確認している様子が見られたことから、保健教育は「思いやりの心」を育むきっかけ作りになるとの示唆を得た。